

## 編集方針

不二製油グループは、ステークホルダーとのコミュニケーションツールとして、「統合報告書」と「サステナビリティレポート」を年次で発行しています。


「統合報告書」は、当社グループの事業全体像および中長期的な戦略を記載し、その内容についてステークホルダーの皆様との対話を重ねることで、企業価値の向上を図ることを目的としています。一方で、「サステナビリティレポート」は、「統合報告書」のサステナビリティに関する情報を補完するものであり、当社グループが社会の持続可能性に与え得る影響に対する考え方や取り組みを、広範なステークホルダーの皆様に対して網羅的かつ誠実に報告することを目的としています。

報告対象範囲	不二製油グループ <a href="#">グループ会社一覧</a>
報告対象期間	<b>サステナビリティ経営</b> 2022年6月時点の情報に基づき掲載しています。  <b>2021年度活動報告</b> 2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）の実績を報告しています。 一部上記期間以外の活動も含まれます。
発行時期	2022年8月（日本語版） 2022年10月（英語、中国語版）
参考にしたガイドライン	<b>GRIスタンダード</b> 本報告書はGRIスタンダードの中核（Core）オプションに準拠して作成しています。
GRIに基づく開示情報の決定方法	「サステナビリティレポート2022」においては、以下の考え方により、持続可能な社会を実現するために不二製油グループの貢献が期待されるテーマについてご紹介しています。 ① 当社グループのESGマテリアリティ※は、マテリアリティマップ上で当社グループが社会に与える影響度が「極めて高い」かつ社会課題が当社グループに与える影響度が「極めて高い」または「非常に高い」と評価されたテーマ、および当社グループが社会に与える影響度が「非常に高い」かつ社会課題が当社グループに与える影響度が「極めて高い」と評価されたテーマとしています。これらについては、グループレベルで対応し、情報開示を行っています。 ② ①以外と評価されたテーマについても、関連する各社・各部門で対応し、ステークホルダーの意思決定に影響し得る情報を開示しています。  ※ ESGマテリアリティの詳細については、以下のURLをご参照ください。 <a href="https://www.fujioilholdings.com/sustainability/materiality/">https://www.fujioilholdings.com/sustainability/materiality/</a>

情報の正当性を担保する目的で、スコープ1および2の全CO<sub>2</sub>排出量の70%以上およびスコープ3カテゴリ1のCO<sub>2</sub>排出量において第三者保証を得ています。

※ 報告書画像からPDFファイルへリンクします。

第三者保証

 **温室効果ガス排出量 検証報告書**  
2022年7月6日

不二製油グループ本社株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会  
地球温暖化対策センター  
上級経営管理者 平川 雅也

1. 検証の対象及び目的  
不二製油グループ本社株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象<sup>※1</sup>における排出量算定結果「2021年度データ CO<sub>2</sub>排出量算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の2021年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の以下の温室効果ガス（GHG）排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、監定の保証を目的とした検証を依頼した。


1) スコープ1 温室効果ガス排出量  
算定対象において事業者が使用したエネルギーの使用に伴って排出されるCO<sub>2</sub>排出量  
2) スコープ2 温室効果ガス排出量  
算定対象において使用した電力、熱の使用に伴って排出されるCO<sub>2</sub>排出量

検証の目的は、算定方法に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成しGHG排出量情報を報告する責任は事業者であり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載されたGHG排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き  
当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載の GHG 排出量を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- GHG 排出量の正確性を確認するためにサンプリングによる根拠となる資料の確認

温室効果ガス排出量 検証報告書 一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター 〒100-8522 東京都港区赤坂1-2-2 頁数 1 / 3

 **温室効果ガス排出量 検証報告書**  
2022年7月6日

不二製油株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会  
地球温暖化対策センター  
上級経営管理者 平川 雅也


3. 検証の結論  
算定報告書に記載された2021年度の温室効果ガス排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

※1: 国内：不二製油株式会社 阪南事業所、不二製油株式会社 千歳工場、不二製油株式会社 関東工場  
海外：フジオイル(シンガポール)、ウッドランド サニーフーズ、  
パルマジュ エディブル オイル、不二製油 (佐賀県) 有限公司、天津不二置白有能公司、  
フジ ベジタブル オイル、フラーマー チョコレート カンパニー (シカゴ 工場)、  
フラーマー チョコレート カンパニー (イースト グリーンビル 工場)

※2: 上記算定対象の検証された温室効果ガス排出量は別紙を参照

以上

温室効果ガス排出量 検証報告書 一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター 〒100-8522 東京都港区赤坂1-2-2 頁数 2 / 3

 **温室効果ガス排出量 検証報告書**  
2022年7月25日

不二製油グループ本社株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会  
地球温暖化対策センター  
上級経営管理者 平川 雅也

1. 検証の対象及び目的  
不二製油グループ本社株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象<sup>※1</sup>における排出量算定結果「2021年度データ CO<sub>2</sub>排出量算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の2021年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の以下の温室効果ガス（GHG）排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、監定の保証を目的とした検証を依頼した。


1) スコープ3 温室効果ガス排出量  
算定対象の事業活動におけるスコープ3 カテゴリ1<sup>※2</sup>において排出されるCO<sub>2</sub>排出量

検証の目的は、算定方法<sup>※3</sup>に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成しGHG排出量情報を報告する責任は事業者であり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載されたGHG排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き  
当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載の GHG 排出量を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- GHG 排出量の正確性を確認するためにサンプリングによる根拠となる資料の確認

温室効果ガス排出量 検証報告書 一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター 〒100-8522 東京都港区赤坂1-2-2 頁数 1 / 3

 **温室効果ガス排出量 検証報告書**  
2022年7月25日

不二製油株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会  
地球温暖化対策センター  
上級経営管理者 平川 雅也

3. 検証の結論  
算定報告書に記載された2021年度の温室効果ガス排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

※1: 国内：不二製油株式会社、フジフレッシュフーズ株式会社、オーム乳業株式会社、株式会社エフアンドエフ  
海外：フジオイル(シンガポール)、ウッドランド サニーフーズ、  
パルマジュ エディブル オイル、フジオイル(シカゴ)、フレイアパザインドタマ、  
フジ グローバル チョコレート (M)、不二製油 (京都府) 有限公司、  
不二製油 (徳島) 有限公司、天津不二置白有能公司、巴世美乃克力製造 (上海) 有限公司、  
フジ ベジタブル オイル、フラーマー チョコレート カンパニー、ハラルド、  
フジオイル ヨーロッパ、フジオイル ガーナ

※2: カテゴリ1 (購入した製品・サービス)：主な製品の原料及び容器包装を対象

※3: サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (ver.2.3)、  
及び、事業者が作成した「スコープ3カテゴリ1算定手順書」  
排出原単位は、カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム ver.1.04、  
カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム (IDEA ver.1.1)、3EID、Wilmar  
Sustainability Report 2017 を使用

※4: 上記算定対象の検証された温室効果ガス排出量は別紙を参照

以上

温室効果ガス排出量 検証報告書 一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター 〒100-8522 東京都港区赤坂1-2-2 頁数 2 / 3